

ときめき人

Tokimeki bito

地域の文化財を未来へ



東北工業大学の皆さん。後列左が、猿渡学(経営コミュニケーション学科教授)さん、前列右が中村琢巳(建築学科准教授)さん。

登米市と東北工業大学は、2018年12月13日に連携協力の協定を締結。同大学の猿渡学教授と中村琢巳准教授は、研究室の学生と登米町をたびたび訪れ、地域の文化財を未来につなごうと、それぞれのテーマで活動を展開している。

猿渡教授は、「地域振興はよくバカ者、ワカ者、ヨソ者が必要と言われています。地域の魅力を再発見しやすいという意味ですが、同研究室はそこにぴったり合致する」と話す。「〇〇者」だからこそ地域の魅力をどう情報発信して盛り上げられるかを「地元一体型」で地元の人たちを巻き込み、連携して支援することを目指す。「〇〇者」は地域独自の風習や習慣を知らないからこそ、新しい価値観や文化の導入へスムーズに取り組める。登米市を非日常の世

界として見る、触れるもの全てを魅力的に感じられるのが「ヨソ者」。同大学の学生たちは、「登米市の皆さんとともに地域を盛り上げていきたい」と語る。

中村准教授の研究室は、近代洋風建築や町家、武家屋敷などが織りなす登米町を中心に、歴史的町並みの調査活用や地域の魅力を伝えるデザイン提案に取り組んでいる。特に、歴史ある建物の伝統技術にこだわった保存修復や無形文化と文化財活用のあり方を、地域住民と考えていくことが研究のテーマ。「おかえりモネ」で実感した登米市の誇る豊かな自然。「歴史的建造物の豊かさ、木材やスレートを含めた地域資源、森林や北上川など自然が集約された魅力は登米市の多彩な文化や伝統から見出せる」と中村准教授は語る。

編集後記

▼今月号の特集記事「『登米』という選択」は、市外出身の私自身が普段、取材の中で教えてもらっているたくさんの魅力を伝えたいと思い企画しました。今回の取材の中でもこの場所の多くの良さを教えてもらいました。取材に協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。(三浦)

▼取材では、すてきな笑顔とエピソードから元気をもらえる人たちに出会えます。共通しておおらかな人柄でありさつが丁寧なので、緊張がほぐれます。感謝を文字で表現し、市の魅力と地域資源、市民皆さんの思いを十分に伝えられる語彙と情報発信力を研さんしたいです。(高橋)

▼結成20周年を迎えた劇団ドリム☆キッズ。節目の年の公演がコロナに負けず実現しました。団員たちは「ドリキの良さを伝えたい」「一歩踏み出す力を届けた」と力のこもった演技で観客を魅了。精いっぱい演技に仕事を忘れて胸が熱くなりました。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

